

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書】

都道府県名	鳥取県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	境港市立外江小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	2	14	
児童数	46	60	72	66	67	69	3	383	20

研究の概要

1. 研究主題

意欲的に学ぶ子の育成 ～確かな学力の定着をめざして～

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

1年～6年、特殊学級 算数
・児童の実態から、算数の学力を向上させる必要があるため。
・昨年までの研究を充実、発展させるため。

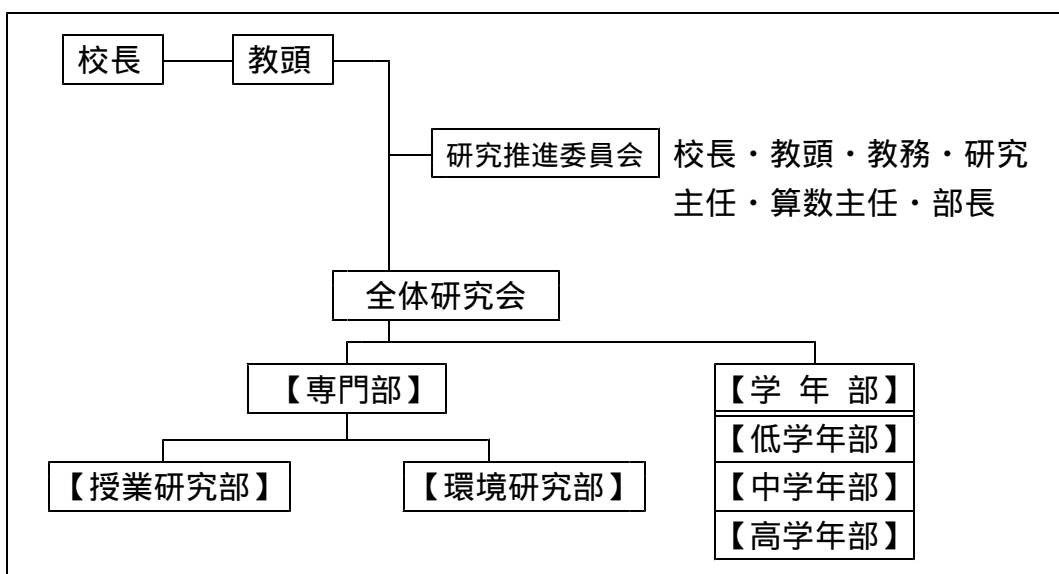
(2) 年次ごとの計画

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>意欲的に学ぶ子の育成 ～確かな学力の定着をめざして～</p> <p>研究の見通し</p> <p>(1) 個に応じた多様な学習形態や学習方法で指導することにより学ぶことの楽しさや成就感を味わい、意欲を持って学習に取り組むようになるであろう。</p> <p>(2) 基礎・基本を明確にし、算数的活動を生かした授業の展開を図ることにより、算数の楽しさを味わいながら理解を深め、考える力を高めることが出来るであろう。</p> <p>研究内容・方法</p> <p>(1) 基礎・基本を確実に定着させる授業づくりと指導方法の工夫</p> <p>学ぶことの楽しさや成就感を味わうことができる授業のための補充的・発展的な教材の開発と指導方法の工夫</p> <p>算数的活動を生かした授業の展開</p> <p>基礎・基本のとらえ方の共通理解</p>
--------------------	---

	<p>少人数指導の工夫と充実 計算力の定着を図る場（チャレンジタイム）の設定と計算力育成</p> <p>(2) 評価の工夫と諸検査の活用 年間指導計画、評価規準（学習に対する具体の評価規準）の見直し 児童の学習に対する意識調査の実施 診断テストの実施及び分析と基礎学力調査結果の活用 個に応じ、個を生かす指導や支援の工夫をするための座席表の活用 プレテストなどによる実態把握</p>
--	---

平成16年度	<p>テーマ 意欲的に学ぶ子の育成 ～確かな学力の向上をめざして～ 研究の見通し</p> <p>(1) 基礎・基本を確実に定着させる授業づくりと指導方法の工夫 をすることにより、学力が向上するであろう。</p> <p>(2) 個に応じた指導をすることにより、学ぶことの喜びや成就感を味わうことができ、学力が向上するであろう。</p> <p>(3) 基礎・基本の定着度を適切に評価して指導に生かすことにより、学力が向上するであろう。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>(1) 基礎・基本を確実に定着させる授業づくり ・基礎基本を明確にした授業の展開 ・算数的活動を生かした授業の展開</p> <p>(2) きめ細かな評価と個に応じた指導 ・評価規準を生かした授業づくり ・個に応じることが出来るよう補充的、発展的な教材の開発と指導方法の工夫</p>
--------	--

(3) 研究推進体制



平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究成果

基礎・基本を明らかにし、単元の前後関係も意識しながら授業を行ったことにより、指導内容の重点化が図られ、児童の理解が深まった。

少人数指導を習熟度別4グループにするなど、今まで以上に児童の実態に合わせて実施したことにより、より個に応じた支援が出来るようになった。その結果「算数が好き」と答えた児童が、5月は約55%だったが12月は約70%になった。

算数的活動を取り入れることで、意欲的に自力解決をしようとする姿や、練り上げの場でこれをつかって説明する児童の姿が見られるようになった。

児童が自己評価をすることを続けたところ、自分の良さに気づけるようになり、さらに伸びたいという意欲が伺えるようになった。

繰り返し学習のできる場「チャレンジタイム」を設定し、全校一斉に基礎・基本となる四則計算の計算練習に努めたところ、年度当初平均42%だった正答率が12月は75%に向上した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 6学級以下 7～12学級
 13～18学級 19～24学級
 25学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 一部教科担任制 その他
- 【研究教科】 国語 社会 算数 理科
 生活 音楽 図画工作 家庭
 体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無